

本日は、平野学長を始め、諸先生方に御臨席賜り、私たちのために心のこもった式典を挙げていただき、別科助産専攻修了生一同心より御礼申し上げます。

一年前の春、私たちは、助産師への憧れと強い志を胸にこの宮崎県立看護大学別科助産専攻の第四期生として入学いたしました。新型コロナウイルス感染対策のため、自宅での課題学習からの始まりとなりましたが、前例のない初めての経験に対しても、感染予防を徹底しながらの講義や演習、オンラインでの遠隔講義など、さまざまな工夫をしていただき私たちに学びの場を与えてくださった先生方に深く感謝いたします。始まった講義では、必要とされる知識の多さや技術の難しさ、次々に課せられる課題に戸惑いながらも、学ぶことの喜びを実感しました。そして、年齢や経験、立場も異なる学生同士が、意見を交わし、相手の意見を受け止め、認め合いながら自己の視野を広げていくことができました。

分娩介助実習では、母子とその家族の持てる力に感動し、新しい家族を迎え入れる出産という健康的で明るい出来事に立ち会うことができる喜びと同時に、分娩介助者として命の誕生に立ち会うということの責任に押しつぶされそうになることもありました。しかし、辛く苦しい時こそ、先生方が寄り添い、時には厳しく、愛を持ってご指導くださいました。そして、母子が出産という出来事を無事に乗り越え、健康と幸せを保障されるために、私たちは常に知識、技術を学び磨き続けなければならないこと、専門職としての決意を新たにすることができました。実習を通し、未熟な私たち学生を快く受け入れてくださった妊産婦さんとそのご家族、そして辛抱強く丁寧にご指導くださった実習指導者の皆様に深く感謝申し上げます。

助産研究、新生児蘇生法、中学生のピアカウンセリングなど多くのことを仲間と共に学び、作り上げ、自分自身とも真剣に向き合ったこの一年は、私たちの人生においてかけがえのない時間となりました。そして、助産師を志す者として、それぞれが自分自身の助産観を培っていき礎となりました。今日この日は、ゴールではなく、スタートだと考えます。助産師として、宮崎の女性が安心して産み育てることを選択し、笑顔で子育てをしていくことができるよう、常に寄り添い、これからも精進してまいります。

本日この晴れの日を迎えることができましたのは、教職員の皆様のお陰だと存じます。別科助産専攻修了生一同、改めて御礼申し上げます。そして、学びの機会を与え、応援していただいた職場の皆様、家族の支えなくして、ここまで来ることはできませんでした。言葉では言い尽くせぬほど感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、宮崎県立看護大学の益々の発展とご指導くださいました先生方の御健康と御活躍並びに在校生の皆様の一層の御健闘を心からお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

令和3年3月16日

別科助産専攻修了生代表 遠藤陽子